

- 1 日 時 平成 27 年 11 月 28 日(土) 18:30～20:25
- 2 会 場 市役所 1 階災害対策室
- 3 グループ名 ゆめづくり市民の会
- 4 参加人数 グループ：8 人 職員等：7 人 計 15 人

1 開会（市長公室長）18:30

2 グループ代表者あいさつ 18:33～18:37

【グループ代表】

今回の申込みの主旨は、三町合併後 10 年が経過している中で、韮山反射炉の世界遺産登録という大きな動きがあったことから、市民が、このことをどのように捉えているのかというのがあります。ゆめづくり市民の会としても、この世界遺産登録の決定を契機に、よりよい伊豆の国市となることを願っておりますが、「韮山反射炉を活用した街づくり」をテーマに市長の考えを伺いたい。

3 参加者自己紹介 18:40～18:45

ゆめづくり市民の会の参加者自己紹介
職員自己紹介

4 懇談会 18:45～20:25

【市長】

ゆめづくり市民の会から、事前に二つの項目が上げられています。一つは、合併後、旧三町の市民の融和が図られているのかということ。もう一つは、伊豆の国市は、これから何をもって地域の発展を実現していくのかということです。一つ目の市民の融和に関して言えば、ある時、合併時に決定した市章のことで、どうして静岡県と同じような市章にしたのかというお話を頂きました。合併後、10 年が経過いたしました。私が感じたことは、ようやく市民の皆様が市の動きや市政に興味をもって言いたいことを言えるようになったのではないかと感じております。このような傾向は、少しずつではありますが、旧三町の意識が薄れ、一つになろうと言う意識の始まりではないかと捉えています。

様々な意見があることは、融和な市政を築くうえで必要なステップであると考えています。

二つ目の地域発展のために何を行っていくかということですが、市長の立場としては、こんなことをやりますよということを軽々しくは言えません。水面下でしっかりと検討し、明確な政策を立てて議会に説明し理解してもらわなければなりません。そうしませんと、私が発言したことが一人歩きして違う意味で解釈されてしまう恐れがあることをわかって頂ければと思います。

スポーツワールド跡地のことや、庁舎建設のことはどうなっているのかというお話が多々ありますが、予算化の目途が立たなければ発表できないことをご

理解いただきたい。

人口消滅都市の問題がクローズアップされましたが、どこもかしこも人口を確保するための競争が市町間で始まりました。現在は、本市の人口減少をどのように食い止めていくのかに目を向けて様々な施策を検討しているところです。

【グループ代表】

市民の融和に関してですが、聞いた話によりますと葦山反射炉が世界遺産に決定したにも関わらず、宿泊客が宿泊先でこのまちの見どころを聞いたところ、そういう場所はここには無いと言われたとのことでした。

また、知り合いの方からは、大仁地区のある人が、葦山反射炉の世界遺産決定が葦山のことだろうという返答をされた話も伺いました。

これも、今後の市がどのようにしていくのかというコンセプトが示されていないために、旧三町の考えやイメージが継続され市民の融和に繋がっていないのかなと感じています。

【市長】

市内の宿泊先関係者から街の見どころが無いと言われた話は有名な話で、宿泊先で従事している方が、地元の方でないこともあって葦山反射炉自体を認識していなかったかもしれません。

私も県議会議員の頃から葦山反射炉を世界遺産にしたいと思って取り組んできましたが、当初は、葦山反射炉が世界遺産になんかならないと言った人もいましたし、仮に世界遺産になっても観光客は来やしないと行った人もいました。

これから、反射炉周辺をどうしていくのかということになりますが、用地を買収した場所にガイダンス施設を建設します。

【グループ代表】

これまでの市長のご苦勞はよくわかっています。ガイダンス施設の整備も理解できます。しかし、世界遺産になった契機として、今後取り組まなければならない何かは不足している様な気がします。

今回のふれあいトーク開催の目的がまさにそれでして、葦山反射炉を訪れた方がリピーターになるような世界遺産になってもらいたいと思っています。

また、市民が盛り上がるためには何が必要かを考えてもらいたいです。

【市長】

葦山反射炉の世界遺産登録に向けた取り組みに際し、近隣市町に対しても協力をお願いしてきました。昨年 of イコモスによる現地調査の前に近隣市町を回ってお願いしてきたわけです。

【グループ代表】

現在の観光客の現状を見ると、東京から 100Km 圏内のため約 8 割が日帰り客

だと思えます。宿泊を伴わないツアーが多い中、お金を落としてもらうにはどのようにしていく必要があるかを考えていかなければならないと感じています。

【市長】

私も民間ツアー業者の行程を調査させました。バスで来る観光客は、朝都内を出発し、東伊豆、南伊豆、西伊豆に行き昼食をとった後に、韮山反射炉に寄って帰るコースが多いようです。

食ツアーと題し、東海岸の金目鯛や西海岸のカツオ汁を食べるツアーがあり、その行程に韮山反射炉が組み込まれているわけです。

では、どこでお金を落としてもらうかが大きな課題です。

一番いいのは、グリーンプラザに寄って地元の野菜を沢山買って帰ってもらうのが理想ですが、現状は、昼過ぎには野菜が無くなってしまい、品物が確保できないことが問題になっているわけです。これは、大仁のまごころ市場も同じことが言えます。

【参加者】

他所の道の駅に行くと同行した年配の女性が自分でも野菜を作っているのに野菜を沢山買って帰る姿を見ます。なぜ、作っているのに買うのと聞くと、取りに行くのが面倒だとのことでした。確かに、野菜を購入して帰る人はいると思います。今の市長の発言で、野菜が無くなったから補充をとということになりますが、補充すると翌日の野菜が納入出来ないと言う問題も発生します。市内だけでなく、近隣で生産された品物も入れる事でうまく調整することも一案だと思えます。

【市長】

反射炉プロジェクトの一環として、商工会女性部が懸命になって商品を作っていた販売しているところですが、圧倒的に商品が不足しています。今後、商品を確保するための手立てを考えていかなければならないと思っています。

また、野菜の他に地元の果物を活用したスイーツの開発も行わなければならないと考えています。

そして、商品の販売については販売する場所の確保が必要ですが、韮山反射炉が世界遺産登録に決定したことで景観確保のための様々な規制がかかることも分かって頂きたいです。

【世界遺産課長】

韮山反射炉が世界遺産登録となりましたが、韮山古川も含めて構成資産となっており、そこから見て360度視認範囲がバッファゾーンになっています。

この範囲は、景観法により保護する必要があるため、市が責任をもって管理していかなければならない区域となっています。

市民が自宅を改築するのにも規制が入るので、関係者の協力も得ながら保護

していかなければなりません。

周辺には公園やビオトープもあり、そこで活動して頂いている地元の団体の皆様にも協力して頂きながら現状の景観を守っていかなければならないと思っています。特に、反射炉の進入道路沿いにも地元の団体の皆様にコスモスを植えて頂き感謝しています。

【グループ代表】

コスモスの件については、中区のグランドワークの皆さんが中心になり、私たちのゆめづくり市民の会も協力して実現できたものです。

コスモスで終わるのではなく、次に何をということも考えていければと思います。

【世界遺産課長】

配布しました葦山反射炉整備事業の資料図に黄緑色の範囲がありますが、この範囲が梅園となっており、事業の一環として公園整備を進めます。また、敷地内で回遊できるよう梅園と展望台を繋ぐ散策通路も整備しています。

【市長】

配布資料の中にガイダンス施設の外觀が示されていますが、茶色で見栄えがしないと思っている方もおられると思いますが、この外觀が一番相応しいということです。

芝生広場もできれば、小さな子どもを連れた家族も来ると思いますし、何と言っても葦山反射炉を学習するために、修学旅行や遠足で来る児童や生徒が増えると思っています。

公園やビオトープがありますので、その周辺に木村鑄造さんの協力を得られれば、当時の反射炉で行われていた作業の一部でも紹介できるような場所を設置すると同時に、パンを焼く場所も確保し、親子でお菓子をつくってもらうことにより、パン租である江川坦庵公も紹介できればというのが私の夢でもあります。

また、国際的視野から考えるとイタリアとの文化交流も検討したいと考えています。先日も、アクシスかつらぎで知事広聴がありましたが、市民の代表として長岡生コンの宮本さんがイタリアとの事業展開について発言が有りました。現に、会社ではイタリア人を採用しているとのことでした。イタリアは、地理的、気候的にも伊豆半島と類似する部分が多く、この反射炉の世界遺産決定を契機に中国や韓国といった東アジアに限定せず、欧州の観光客を結び付けていくことも考えていかなければならないと思っております。

【グループ代表】

今、市長から国際的な視点でとても大きな範囲のお話でしたが、もう少し具体的で現実的な視点から、市内にはオペラ協会や混声合唱団など、様々な活動

をされている団体が有ります。

これらの団体の協力は、まちづくりを進めるうえでも大きなエネルギーになると思っています。まず、地元で活躍している方々を認識して頂いて、各団体等が結びつけていくような取り組みが必要ではないかと思えます。

【市長】

伊豆の国市の今後を考えた場合、文化というのはとても重要な位置づけになります。文化を失くしたら本市は成り立ちません。歴史文化の宝庫でもありますので、市としてはこの文化の発信を一番に掲げ、まちづくりを展開していきたいと考えています。

【グループ代表】

市の組織に地域づくり推進課がありますが、ボランティア団体を結びつけるような事業がないと感じています。これからのまちづくりを進めるうえで、様々な活動を行っている団体を認識し、結び付けていくような取り組みも必要だと思っています。各団体が持っている情報の共有ができるような体制づくりをお願いしたいです。

【市長】

職員の配置数も含めて、そこまで手が回っていないのが現状です。

【参加者】

私は、名古屋から三島市に移り住んだ者ですが、この地が歴史のまちであることを認識した一人です。

【市長】

韮山反射炉の世界遺産登録が実現できましたが、今年初めて伊豆の国時代まつりを開催したように、ようやく歴史のまちということを大々的に発信できた段階なのです。

【まちづくり政策監】

現在、まちづくりの指針となる総合計画の策定作業を進めていますが、この度の韮山反射炉の世界遺産登録を契機として、韮山反射炉単体だけでなく市内を周遊でき、また、市内に長い時間滞在してもらえるように温泉や歴史資源といった付加価値を結び付けながらまちづくりを進めていきたいと考えています。

伊豆の国市が生き残るためには、それを実現する施策が必要だと思っています。

【参加者】

伊豆の国市が歴史に満ちた場所であることをもっと PR するために、それぞ

れの時代でどのような人物が関わっているのかを明確に区分して旅行会社等に説明していかないと本当の歴史的価値が伝わらないと思います。

【市長】

合併後、歴史文化を全面に出した観光が PR できていないのです。これから、歴史文化を全面に掲げた観光施策を進めていきます。

【観光文化局長】

昨年、観光基本計画を策定したところです。現在、ワークショップを開催し、より具体的なアクションプログラムの作成に向け取り組んでいるところです。

先ほど、宿泊先の動きが悪いとお話でしたが、女将さん方が実際に文化財を見ながら歴史文化の勉強を始めているところですので、これから宿泊客への情報発信も効果的に行われていくと思っています。

【参加者】

観光に関して言えば、まず小さいことですが案内看板で旧三町の名が変更されていないものもあります。できることから改善して行ってほしいです。

また、先ほども提案がありましたが、それぞれの時代でどのような人物が関わっているのかを明確に区分して、時代ごとの情報発信が必要だと思います。

【参加者】

三島市には、産業、地理、歴史がまとめられた本が 700 円で売っています。小・中学生はその本で自分の郷土を知ることが出来ます。伊豆の国市には、そのような本がありますか。もし、その様な本があれば、宿泊先にも配架して活用できるのではないかと思います。

【参加者】

市民の目線で市長が考えるまちづくりの姿が実現できるようなシステムづくりが必要だと思っています。イベントに限らず政策立案についても公募制による委員会制度とするのも一案だと思っています。

【市長】

伊豆の国時代まつりの組織がまさに市民の目線で運営されたイベントです。

時代まつりの開催という目的が明確となっている形こそ成果として実る部分も多いと思っています。

今後、時代まつりの運営委員で反省会が行われる予定ですが、そこで新たな課題を検討して頂いて方に引き続き協力を願って次のイベント開催に向けた準備を進めていければと考えているところです。

市民の融和に関して言えば、この時代まつりの運営に携わっていただいた方々は、旧三町の枠にとらわれない活動ができていたと確信しております。

【参加者】

市民の融和に関連して、大仁梅まつりを毎年開催していますが、来年は商工会を通じて伊豆長岡地区事業所の出店の話もあります。

【グループ代表】

委員会制度についてですが、観光課のワークショップを始め様々な委員会が開催されています。それらが、永続的に機能している状況にはないと思っています。単発的な形で終了してしまうと、せっかく参加した方々のやる気が損なわれているように思います。花の植栽や公園での活動一つにおいても市役所の担当窓口が複数あるため、なかなか効率的に実施できないのではないかと思います。

【市長】

花の植栽については、活動を統括するまちづくりアドバイザーを設置したところです。今後、設置した効果が現れると思っています。

【参加者】

先ほど、市長からグリーンプラザや大仁まごころ市場の品物が午前中には無くなってしまうとのことでしたが、まず、地元の地産地消が実現する環境づくりが必要だと思います。また、先日の定例市長会議の新聞記事を拝見しましたが、小野市長の発言は韮山反射炉を活かして伊豆半島全体のことを考えた発言だと感じています。男性市長がほとんどの中で、女性市長である小野市長の考え方は、近隣市町のネットワークづくりに必要なことだと思います。

【参加者】

私たちの団体はNPOを立ち上げました。その理由は、放置竹林を整備するには、個人で放置竹林の土地を借りることが出来ないことから、NPOを立ち上げたわけです。それぞれの活動の目的があるわけですから、団体同士が統合することは難しいと思います。例えば、花を植えてまちを美しくしようという目的が同じであるならば、市内には花の会がいくつかあるので、互いに連携できるようなつなぎ役として市が関わればよいと思います。

観光客を呼ぶための花の植栽以前に、自分たちの地域をきれいにしようという活動が先だと思います。

【市長】

市内には、高原地区、田中山地区、浮橋地区、長者原地区、板橋地区という山間地があるわけですが、そこで地道な活動を行っている団体もあります。市としても、経済基盤の環境を整備する必要性を感じています。せっかく活動していただいているので、少し手をいれてまちづくりを進めたいと思っています。

先ほど、農産物の生産が足りないとお話ししましたが、山間地の耕作放棄地

を解放する等、ニューファーマーの受け入れも拡充した取り組みを行っていきたくないと考えております。

【グループ代表】

現在、総合計画を策定中ということですが、ぜひ、市民の目線で発言された意見が反映されているような計画内容にしていきたい。

【市長】

今後の伊豆の国市は、農業と文化でやっていかなければならないと考えています。さらに、温泉施設と医療機関を PR して本市に住んでもらえるような取り組みを行っていきたくと思います。

【参加者】

韮山金谷から反射炉に通ずる道路の途中に市営住宅がありますが、景観的にも何とかありませんか。

【市長】

あの道路は、とても重要な道路で江川坦庵公が江川邸から反射炉に通った由緒ある道路です。市では、道路の愛称を募集し、「坦庵公思索の道」という名称にしたところでは。

市営住宅については、今後どのようにしていくかを現在検討している段階です。

【まちづくり政策監】

岩戸の市営住宅は老朽化しており、市民を始め観光客にとっても悪いイメージを与えてしまうと思っています。直ぐに立ち退いてもらうことは難しいため、部屋が空き次第取り壊す計画となっています。また、韮山反射炉から江川邸まで 2 Km ほどありますが、休憩所の設置も考えていきたいと思っています。来年度から整備の計画を進め実現に向けた取り組みをしていきたいと思っています。

【参加者】

道路の整備については、幕末の情緒が残るよう外来植物を植えるのではなく、自然の状態を残しつつ整備をお願いしたいと思っています。

【まちづくり政策監】

ご意見の通り、外来植物を植えるのではなく、坦庵公と関わりのある植物を文献等で調査して植栽を考えていきたいと思っています。

【グループ代表】

伊豆の国市の木がナギの木ですが、虫がつきやすく街路樹を見ますと管理が

行き届いていません。

ボランティアで手を入れている方もいるので、ぜひ、市でも認識して頂いて目が行き届いていない場所の管理をお願いしたいです。

【市長】

急傾斜地の木もそうですが、山間地の道路沿いの木も手を入れていない所が多いわけです。急傾斜地は約 350 か所ある中で、道路沿いの木の手入れは少しずつやっっていかなければならないと思っています。

【グループ代表】

先ほども話をさせて頂きましたが、ボランティア団体をコーディネートできる部署を設置してほしいと思います。

5 閉会（市長公室長） 20:25

（会議録取りまとめ 市長公室）